



ライフデザイン学科通信

授業に生きる京都の伝統

▶ 暮らしに生きるものづくり

京都には日本が誇る伝統工芸の数々、暮らしに関わるものづくりが多くあり、今も私たちの生活の中に根付いています。この授業では京都のものづくりに携わり、伝統を継承しつつも常に新しいものづくりへの挑戦を続ける職人や老舗企業の協力を得て、“職人”と言われる人たちの仕事や技術、生みだされるモノの価値を知ることからスタートします。そして、ものづくりの現場での体験学習を通して作り手の思いを感じ、人と人、人とモノとのつながりについて考えていきます。

2016年度は「友禅彫り」「京漬物」「京金網」づくりを体験しました。こうしたものづくりと自らの暮らしとの繋がりを考え、暮らしの豊かさや持続可能な社会への理解を深めていきます。



▶ 製菓実習

製菓実習Ⅱでは創作和菓子に取り組んでいます。和菓子職人さんから京菓子の歴史や季節感を大切にするものづくりの講義を受けた後、“こなし”と呼ばれる京菓子独特の生地を使って、代表的な伝統的技法を実習します。2016年度は“夏”というお題からイメージをふくらませて創作和菓子を2種類作りました。和菓子の中でも京菓子は抽象的な表現が好まれるためシンプルなデザインに仕上げます。さらに“菓銘”をつけることで、見る人にその菓子のテーマを伝えます。1回目の授業でイメージスケッチを描き、2回目に実際に菓子を創り菓銘をつけます。全員で出来上がった菓子を鑑賞する時、オリジナリティ溢れる作品に感嘆の声があがります。



▶ 京の伝統文化を創る

伝統文化「能」について学ぶ、京都ならではの集中講義です。昨年度は、初日に能楽師の河村晴久先生から直接、ご講義をいただきました。日を改め、左京区の京都観世会館で実際に能を鑑賞し、その後2日間、初心者向けの「能鑑賞マニュアル」を作成するアクティブラーニング型の授業を実施しました。議論したことは、①能は舞台装置や表現方法などが非常にシンプルであるため、演じられている人の感情を鑑賞者が自由に読み込むことができるということ②能は戦や別れなど極限状態での人間のあり方を通して、「人間とは何か」ということを伝えたいのではないかということでした。伝統文化を体感できた4日間でした。

